

北海道港湾空港建設協会

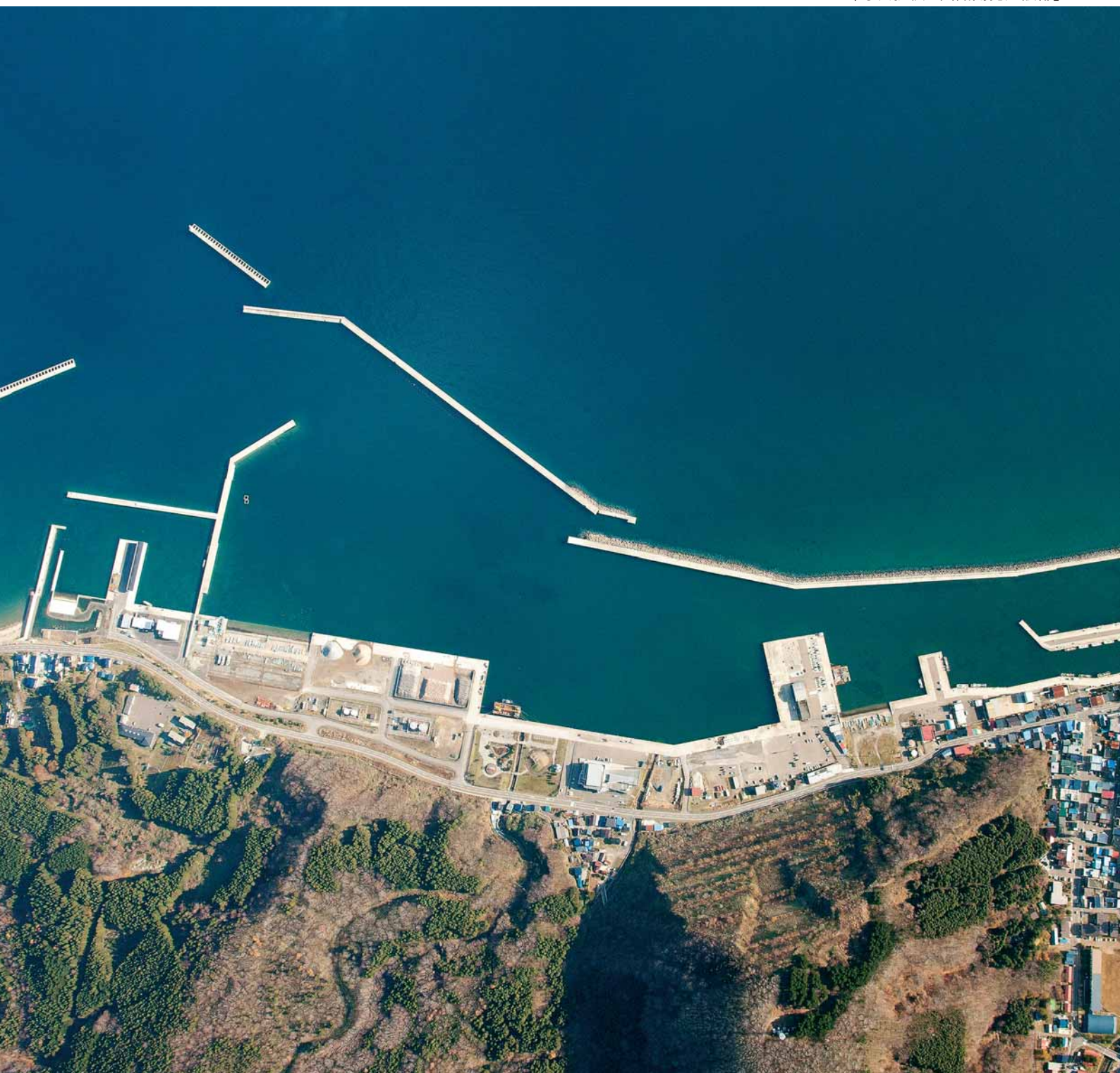
# 会報

平成30年 5月

# 北のみなと

No.94

〔写真提供：函館開発建設部〕



— 目 次 —

Report

**北海道港湾空港建設協会 第33回通常総会開催** ..... 1

**平成29年度安全管理講習会** ..... 3

**開会挨拶** ((一社)日本埋立浚渫協会北海道支部 支部長 白川 隆司)

**「港湾・空港・漁港工事の安全対策について」**  
(北海道開発局港湾空港部港湾建設課 建設第2係長 菊地 隆一)

**「建設工事における労働災害防止について」**  
(北海道労働局労働基準部安全課 地方産業安全専門官 小田島 暁)

**特別講演「健康と糖尿病」**  
(全国健康保険協会 北海道支部 保健師 須藤 由香)

**平成29年度港湾空港工事報告会** ..... 5

**開会挨拶** (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)

**来賓挨拶** (北海道開発局港湾空港部 港湾建設課長 平澤 充成)

**工事報告**

**「小樽港岸壁改良工事」**  
(勇・近藤経常建設共同企業体代表者 勇建設㈱ 工事部工事主任 大瀧 立夫)

**「歯舞漁港(歯舞・温根元地区)建設その他工事」**  
(渡辺建設工業㈱ 工事部次長 山白 道敏)

**天塩港外1港建設その他工事**  
(堀松建設工業㈱ 工事部代理 野崎 義人)

**稚内港北防波護岸改良その他工事**  
(藤建設㈱ 土木副部長 山下 義明)

**記念品贈呈** (北海道港湾空港建設協会 技術部会長 岡崎 光信)

**講評** (北海道港湾空港建設協会 技術委員会副委員長 宮本 義憲)

各種記事

**我が社の安全衛生管理** (萌州建設㈱ 工事管理部部長 和田 泰典) ... 8

**工事現場紹介「函館港若松地区クルーズ船岸壁整備に本格着工」**  
(東洋建設㈱北海道支店 次長 櫻井 博) ..... 10

**私の趣味『中国瀋陽再訪の旅』** (㈱中田組 梅沢 信敏) ..... 12

Topics

**もんべつ流氷まつり** ..... 14

**小樽雪あかりの路** ..... 15

**客船寄港** 函館港にクルーズ船 本年度初入港 ..... 16

クルーズ船釧路港に初寄港 ..... 16

室蘭港にクルーズ船が寄港 ..... 17

Information

**広報委員会だより** ..... 17

**業界だより** ..... 17



奥尻港・車両の下船状況

奥尻港は、フェリーによる人的交流・生活物資の輸送・水産業の基地として重要な役割を果たしているとともに、当港沖合を航行する船舶の荒天時における避難場所として利用されているほか、災害時の一時避難、支援・復旧基地としての役割も果たしています。

奥尻島の海の玄関口として、地域の物流・産業・生活を支える重要な役割を担っています。

# 北海道港湾空港建設協会 第33回 通常総会開催



通常総会全景

当協会の第33回通常総会は、平成30年4月19日（木）ホテル札幌ガーデンパレスで開催した。全会員数79社のうち67社に出席をいただき、平成29年度の事業報告・収支決算および監査報告、平成30年度の事業計画（案）・収支予算（案）について原案どおり承認された。

平成30年度事業計画については、引き続き安全講習会や工事報告会、北海道開発局等発注機関への要望及び意見交換などに取り組んでいくことを確認した。冒頭、あいさつに立った宮崎会長は、日本の食糧基地である北海道の物流を支える港湾・漁港の必要性を挙げ「地方港湾の整備や老朽化対策の推進等が求められている」と訴えた。また、その社会資本整備の担い手である建設業について「社会の安全・安心を確保する担い手として期待さ



宮崎会長

れている。役割はますます重要なものとなっている」と述べ、協会活動の推進に協力を求めた。

来賓の眞田仁開発局港湾空港部長は、業界の喫緊課題である担い手確保や働き方改革などについて、国も積極的に施策を進めていると説明。港湾部門で週休二日モデル工事を原則全件試行するほか、インターンシップ支援工事について「28年度から取り組み、これまで4人の学生が皆さんの協会の会員企業に就職していて結果が出ている」と強調した。また、ICTの対応について「29年度にICT浚渫の試行に入ったが、これに加え30年度は施工にかかるICT技術活用に取り組んでいく」と述べた。



眞田港湾空港部長

日本港湾空港建設協会連合会の川島毅会長は、港湾・空港等予算の確保と担い手確保・働き方改革・生産性向上の二点を重点に活動していくとし、一層の支援を求めた。



川島会長

## 平成30年度 事業計画

### 1. 講習会等

- 1) 安全管理講習会の開催  
港関係7団体の共催で安全管理講習会を開催する。
- 2) 港湾空港工事報告会の開催

港湾空港建設技術の開発、向上を目的とし、会員が施工した港湾、漁港、空港工事について、施工管理、品質管理等に関する報告会を開催する。

### 3) シンポジウム等への参画

港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに港湾空港整備の促進に寄与するため、関係行政機関、関係団体と連携してシンポジウム等の事業に参画する。

## 2. 要望及び意見交換

- 1) 北海道開発局等に対し港湾空港関係予算及び実施に関する要望及び意見交換を実施する。
  - ①港関係7団体の共催で要望・意見交換会を開催する。
  - ②日本港湾空港建設協会連合会との共催で要望・意見交換会を開催する。
- 2) 北海道港湾振興団体連合会の一員として港湾整備促進及び利用振興活動に参画する。

## 3. 調査研究

港湾空港建設技術の開発、向上に関する調査研究及び資料の収集並びにその他工事の施工等に関する事項について調査検討を行う。

## 4. 会報の発刊

港湾空港建設業の社会的地位の向上に関する宣伝及び啓発等を目的として会報誌「北のみなど」を3号程度編集し発刊する。

## 5. 他事業への参加

- 1) 日本港湾空港建設協会連合会が開催する行事に参加する。
- 2) 防災訓練の参加  
「災害発生時における港湾施設等の緊急的な応急対策業務に関する包括的協定」等に基づく防災訓練に参加する。

(記事は、「北海道通信」から一部抜粋して掲載しました)

# 平成29年度 安全管理講習会

RHH13/H0'

b/H0'

日時 平成30年2月23日（金）9:30~12:00

場所 ホテル札幌ガーデンパレス

主催 北海道港湾空港建設協会（一社）北海道建設業協会港湾・漁港部会  
 （一社）日本埋立浚渫協会北海道支部（一社）日本海上起重技術協会北海道支部  
 全国浚渫業協会北海道支部（一社）全日本漁港建設協会北海道支部  
 （一社）日本潜水協会札幌支部



## 港関係7団体が 安全管理講習会開催 139人が熱心に研鑽積む

北海道港湾空港建設協会（宮崎英樹会長）、北海道建設業協会港湾・漁港部会（藤田幸洋部会長）など道内の港関係7団体は2月23日ホテル札幌ガーデンパレスで平成29年度安全管理講習会ならびに港湾空港工事報告会を開催した。

各団体の関連企業から139人が参加し、安全対策の徹底や事故防止対策について研鑽を深めた。

はじめに、主催者を代表して日本埋立浚渫協会北海道支部の白川隆司支部長が挨拶。7団体の役割について「北海道は日本の生活を支える食料供給基地としての大



白川隆司支部長

きな役割を担っている。港湾・空港・漁港の整備や維持管理は不可欠であり、期待される役割を果たしていかなければならない」と訴えた。また、担い手確保や働き方改革など喫緊の課題を挙げ「生産性の向上や後継者の育成は不可欠となるが、安全管理は生産性を向上させる一つのツールであり、安心して働ける魅力ある業界をPRする重要なファクター」と強調。「講習会を通してさらなる労働災害防止に役立て、より一層の安全管理を」と呼びかけた。



菊地隆一係長

講演では、北海道開発局港湾空港部港湾建設課の菊地隆一建設第二係長が、「港湾・空港・漁港工事の安全対策について」と題して話をした。

全国の建設業や港湾空港関係直轄工事における死傷災害発生状況から労災傾向を解説。挟まれ巻き込まれ災害が一番多く全体の四割を占め、月別だと7月～9月と年度末の繁忙期に多く、時間別だと昼休み前後に発生して

いることを説明した。

事件事例からみた安全対策については「現場経験年数が浅い作業員だけでなく、ベテランでも事故を起こす傾向にあるため、現場入場直後の安全管理が重要となる」と訴えた。

また、ヒヤリハット事例1,900件をデータベース化し、工事監督員への提供や安全パトロールで活用していることを紹介した。



小田島暁安全専門官

続いて、北海道労働局の小田島暁地方産業安全専門官は、リスクアセスメント概要とポイントについて解説した。



須藤由香保健師

続いて、特別講演では、「健康と糖尿病」と題して全国健康保険協会北海道支部 保健師須藤由香様からご講演をいただき、生活習慣病の、糖尿病予防、食事管理等について理解を深めた。

# 平成29年度 港湾空港工事報告会

日時 平成30年2月23日（金）  
場所 ホテル札幌ガーデンパレス  
主催 北海道港湾空港建設協会

平成30年2月23日（金）ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、当協会主催の「平成29年度港湾空港工事報告会」を開催した。報告のあった工事は、勇・近藤経常建設共同企業体、渡辺建設工業株式会社、堀松建設工業株式会社、藤建設株式会社が平成28年度に施工した4件で、工事を担当した技術者が工事内容と工事現場での課題に対する取り組みを紹介し、出席者は各工事の工程管理、品質管理、安全管理や創意工夫などの技術について研鑽を深めた。



港湾空港工事報告会

## 主催者挨拶



主催者挨拶 宮崎会長

開催にあたり主催者を代表して宮崎英樹会長は、「毎年開催しているこの工事報告会の技術レベルが上がってきており、ご参会の皆さまも報告者の案件に思うところも出てくるかと思えます。最後までご清聴いただきますようお願いします」と挨拶し、報告会が有意義になることを期待した。

## 来賓挨拶

続いて北海道開発局港湾空港部 港湾建設課 平澤充成課長から挨拶をいただきました。

平澤課長は「本報告会が会員の皆さまの技術の研鑽向上に継続的に取り組まれ、技術レベルが向上されていることに敬意を表すとともに、このような努力の積み重ね

が北海道港湾空港漁港事業の整備を支えていることについてもお礼申し上げます。また、本日参集の各会員、各社がこれから工事を実施する際の良い例となってい



来賓挨拶 平澤港湾建設課長

くものと期待しています」と述べるとともに、報告者をはじめ関係者への感謝の意を表した。

## 工事報告

報告工事は、勇・近藤経常建設共同企業体施工の「小樽岸壁改良工事」、渡辺建設工業(株)施工の「歯舞漁港(歯舞・温根元地区)建設その他工事」、堀松建設工業(株)施工の「天塩港外1港建設その他工事」、藤建設(株)施工の「稚内港北防波護岸改良その他工事」の4件で、各工事担当者から工事概要の説明と工程管理・品質管理・安全管理や課題と課題に対する対応策、工事現場の創意工夫の取り組みなどについて報告された。

## ●小樽港岸壁改良工事

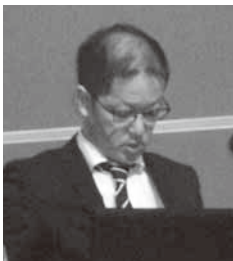


勇建設 株式会社  
工事部工事主任  
**大瀧 立夫 氏**

- ・請負者 勇・近藤経常建設共同企業体
- ・工期 平成28年4月11日～平成29年1月16日
- ・発注者 小樽開発建設部
- ・工事内容
  - 第3号埠頭岸壁  
構造物撤去工、土工、陸上地盤改良工、裏込・裏埋工、仮設工 各1式
  - ケーソンヤード設備撤去  
クレーン撤去工 1式
- ・報告概要

老朽化した岸壁の改良工事と小樽港の斜路式ケーソン製作ヤードの電動クレーン2基の解体撤去について工事説明があり、岸壁改良工事では背後上屋が老朽化していることから70dB以下で施工するため事前調査を実施し、施工方法、施工区域、機械の選定を検討したこと、改良土水中投入では、クラムシエルのブーム先端にGPSを設置し、バケットの位置を管理しながら投入したことやクレーン主桁部の撤去方法の工夫、安全に対する取り組みなどが報告された。

## ●歯舞漁港（歯舞・温根元地区）建設その他工事



渡辺建設工業 株式会社  
工事部次長  
**山白 道敏 氏**

- ・請負者 渡辺建設工業 株式会社
- ・工期 平成28年9月21日～平成29年3月29日
- ・発注者 釧路開発建設部
- ・工事内容  
歯舞地区-3.5m岸壁（改良） L=100.80m

構造物撤去工 L=167.44m、本体工（場所打式）  
L=61.73m、上部工 L=61.65m、  
裏込・裏埋工 V=147m<sup>3</sup>、排水構造物工 L=29m、  
舗装工 A=1,496m<sup>2</sup>、付属工 L=61.65m  
歯舞地区-3.5m岸壁（改良）カルバート工  
撤去工 A=719m<sup>2</sup>、現場製作ボックスカルバート工  
L=70.33m、場所打函渠工 L=0.3m、  
カルバート接続工 L=7.01m、作業土工 V=818m<sup>3</sup>、  
アスファルト舗装工 A=562m<sup>2</sup>、  
海水送水管 L=37.0m  
歯舞地区 船揚場（補修） L=34.0m  
構造物撤去工 V=248m<sup>3</sup>、先端止壁工 N=17個、  
裏込・裏埋工 V=73m<sup>3</sup>、斜路工 砕石V=38m<sup>3</sup>  
砕石均しA=138m<sup>2</sup>・張ブロック据付N=42個、仮  
設工 大型土のう製作据付撤去N=518個  
温根元地区 西防波堤（補修） L=34.90m  
解体打替工法 L=14.42m、銅板被覆工法 L=25.67m、  
リニューアルパネル工法 L=6.0m

### ●報告概要

施工箇所が岸壁・道路・カルバート・船揚場・防波堤と点在し、多種多様な工種に加え、漁業活動に支障がないよう施工時期の制約を受ける工事で、事前の漁港利用者への工事説明では理解しやすいように写真や絵で資料を作成し、施工箇所には照明設備等のライトアップにより視認性を高めて事故防止に努めたこと、歯舞地区-3.5m岸壁およびカルバート工の施工では、施工位置が水位より低く、水替えを行う際は、濁水が港内水域に流出しないよう適切な濁水処理方法などが報告された。

## ●天塩港外1港建設その他工事



堀松建設工業 株式会社  
工事部代理  
**野崎 義人 氏**

- ・請負者 堀松建設工業 株式会社
- ・工期 平成28年4月5日～平成28年11月4日



• 発注者 留萌開発建設部

• 工事内容

天塩港

防波堤（西外） L=15m

基礎工 L=28.58m、本体工（ケーソン据付  
1 函） L=15.0m、被覆・根固工 L=30.94m、  
上部工 L=15.0m、撤去工 L=47.5m、消波  
工 L=49.11m

遠別漁港

-3.5m泊地 A=5,155㎡

バックホウ浚渫工、土砂運搬工 4,546㎡

-3.5m航路 A=438㎡

バックホウ浚渫工、土砂運搬工 109㎡

苫前漁港

-2.5m物揚場 補修工 1 式、-4.0m岸壁  
構造物撤去工、仮設工 各 1 式

• 報告概要

天塩港、遠別漁港、苫前漁港の3港同時施工のため、各現場毎に職員を増員し、社内ネットワークで日々の写真や出来形等を確認しながら手戻り防止を図ったこと、天塩港では埋没した消波ブロック等の撤去に時間を要したことから砂除去専任の潜水士を増員したり、ケーソン据付角度に合った三角形の発泡製緩衝材を定規として据付けする工夫や工期短縮をするための工夫などについて報告された。

## ● 稚内港北防波護岸改良その他工事



藤建設 株式会社  
土木副部長  
**山下 義明 氏**

• 請負者 藤建設 株式会社

• 工期 平成28年6月22日～平成28年12月15日

• 発注者 稚内開発建設部

• 工事内容

護岸（防波）（北）（改良） L=44.3m

床版工、胸壁工、柱工 各 1 式

-5.0m岸壁（改良） L=29.98m

海上地盤改良工、構造物撤去工、本体工（場所打式）、本体工（ブロック式）、上部工、

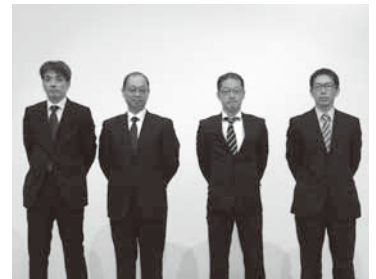
裏込・裏埋工、舗装工、仮設工 各 1 式

• 報告概要

北防波堤ドームの歴史や過去の補修と今回の床版・柱の補修、胸壁工、-5.0m岸壁の改良についてそれぞれ施工の流れと施工方法について説明され、北防波堤ドームでは、床版上の作業時に安全で容易に移動できるように分割組立方式足場とするなど、3点の検討事項と対策や、工事全体の創意工夫、地域への貢献について報告された。

### 記念品贈呈

工事報告終了後、工事報告者4名に技術委員会 岡崎光信部会長から記念品が贈呈され、壇上で報告者4名の記念撮影をして工事報告会を終了した。



報告者の記念撮影

### 講評

最後に技術委員会 宮本義憲副委員長より各工事報告について講評された。

1 件目の小樽港岸壁改良工事では、「綿密な事前調整と



講評 宮本義憲副委員長

的確な施工計画を立てた」ことを評価、2 件目の歯舞漁港（歯舞・温根元地区）建設その他工事では、「この地区特有の課題を優れた工程管理により成し遂げた」と評価、3 件目の天塩港外1 港建設その他工事では、「ケーソン据付時の緩衝材等の工夫など施工性の向上と施工精度を上げる工夫に優れていた」と評価、4 件目の稚内港北防波護岸改良その他工事では、「施工の的確な工夫と施工の効率化、安全性にも寄与した」と評価した。

最後に、発表者と報告会に参加した会場の皆さま方へお礼を述べ工事報告会を終了した。

# 我が社の安全衛生管理

萌州建設株式会社 工事管理部部長 和田 泰典



## 1. はじめに



弊社は2004年10月、勝山組、ハタナカ建設（本社留萌市） 苫前土建（本社苫前町）の3社合併により誕生しました。その後、国道維持工事を主体に稼働していた大萌建設維持（本社留萌市）を合併し現在に至っております。会社の成り立ちから、弊社の施工能力は道路、道路維持、港湾、海岸、河川、農業、水産、森林、建築と建設業の主要分野を網羅し、4箇所の本社、支店、営業所、出張所により北は天塩から南は増毛まで留萌管内全域をカバーする効果的な施工体制を確立しています。また、留萌市を本拠に全道に展開するハタナカグループの一社として、あらゆるお客様のニーズにお応えできる総合建設業たらんと日々努力を重ねております。

2007年には地域の有志とともに、萌州ファーム（本社羽幌町）を設立し、以来羽幌町営焼尻めん羊牧場の指定管理者として地域振興に努力するなど、地域貢献やボランティア活動にも積極的に取り組んでまいりました。



## 2. 安全衛生基本方針



### 【基本方針】

死亡・重篤災害・休業災害“ゼロ”を目指す。

### 【安全衛生目標】

1. RKYを徹底し、全ての危険原因を排除する。
2. 会社の管理・支援の下、自分の安全・健康は自分で守る。
3. 本年度、労働災害“ゼロ”を目指す。

### 【安全スローガン】

安全はあなたの努力とみつける目  
めざそう現場の危険ゼロ



## 3. 安全衛生管理計画



基本方針・安全衛生目標・安全スローガンを基に「安

全衛生管理計画」を策定し、年度実施重点事項を定めて、各作業所に水平展開し、施工計画書において作業所ごとの安全目標を定めて労働災害“ゼロ”を目指し日々安全活動をしています。

### 【年度実施重点事項】

1. 墜落・転落事故防止
2. 重機との接触事故防止
3. 掘削崩壊の事故防止
4. 海上作業の事故防止



## 4. 安全衛生管理活動



### ①安全大会

毎年5月に開催される全役職員と協力会社が参加した安全大会で、労働基準監督署、海上保安部、警察署から講師を迎え、安全講話をいただき、年度安全スローガンの発表と、協力会社からの安全宣言をいただき、全従事者の安全コンセンサスを推進しています。



安全大会

### ②店社安全パトロール

毎月1回、安全担当者と役職員によるパトロールを実施し、点検表による指導・改善で作業所内に水平展開し



店社安全パトロール



て安全意識の高揚を図っています。

全国安全週間、全国労働衛生週間には社長以下役員によるパトロールを実施し、安全衛生面の現場支援を行っています。

## 5. 作業所安全衛生活動

作業所では、良好な労働条件を確保し、快適な作業環境の形成を図るために、共通仕様書及び諸法令に基づき災害防止協議会を設置し、新規入場者教育、安全ミーティング、RKY、KYK活動を実施、毎日の朝礼、午後いちミーティング、終礼による現場内情報交換を充実させ、労働災害防止に努めています。

また、現場周辺の自然環境に注意し、騒音、振動、水質汚濁防止に配慮しながら地域に密着した現場作りを行っています。



朝礼

発注者と他工区工事請負会社で安全連絡協議会を設立し、定期的にお互いの現場をパトロールし、色々な視点からの、安全盲点を指摘しあうことで、より良い安全現場作りを行っています。



安全連絡協議会パトロール

## 6. その他の活動

小平町教育委員会を通して、幼稚園、小・中学校へ、インフルエンザの予防に役立てていただくための、うがい薬とハンドソープを毎年10年以上継続寄付し、子供たちの健康管理に役立てていただく活動などを行っています。

また、今シーズン的大雪で老人憩の家周辺に降り積もった雪の、除排雪を行う地域貢献も好評でした。



教育委員会へ寄付



大雪の除排雪

東日本大震災の翌年に岩手県宮古市に事業所を開設し、主に田老地区の災害復旧工事に携わり、今現在も防潮堤工事などで頑張っております。



田老漁港災害復旧工事

## 7. むすびに

近年、担い手不足や若者の建設業離れなどによる、建設業の衰退が懸念されますが、働き方改革、現場の週休二日制、i-Constructionなどに積極的に取り組み、建設業のイメージアップに努力し、労働災害撲滅に向けて、「安全第一」を基本に安全衛生活動を推進します。

また、留萌はインドのマドラス、スコットランドのウィックとならぶ世界三大波涛の海と、冬は猛吹雪によるホワイトアウト状態など、マイナスイメージが先行する土地ですが、個人の持つ知識や情報を組織全体で共有し、地域に有効活用することで貢献できる企業を目指していきます。

# 函館港若松地区クルーズ船岸壁整備に本格着工

RFF13



6/H0'

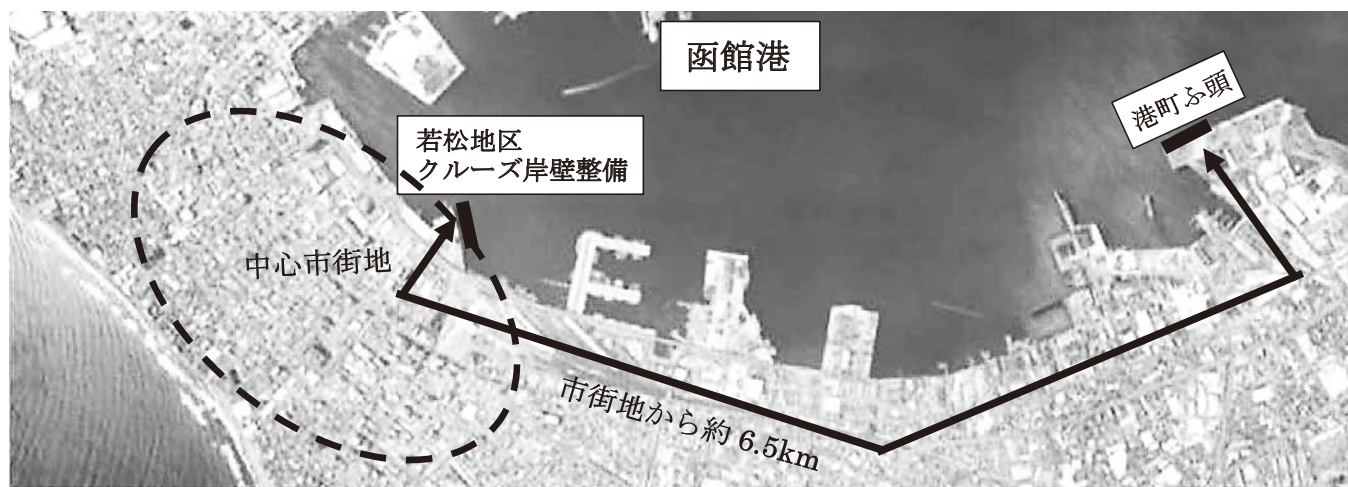
東洋建設(株)北海道支店 次長 櫻井 博

函館港へのクルーズ船寄港数はここ数年急増しており、平成30年度は31隻が予定され道内1位となる見込みである。

しかし、函館港にはクルーズ船専用の岸壁がないことから、主に中心市街地から約6.5km離れた港町ふ頭を利用している。中心市街地から遠く離れ、交通アクセスも

悪いことから、市内の滞在時間が減るなど乗客に対して不便を強いている。

そこで函館開発建設部では、昨年11月から函館港若松地区にクルーズ船岸壁（-10m）整備について、本格着工した。当該工事は設計施工一括方式で受注した東洋建設(株)の施工からスタートした。



クルーズ船岸壁（-10m）整備位置



鋼管杭打設φ1300（陸上部）



鋼管杭打設φ1500（海上部）

岸壁は栈橋構造で、鋼管杭と受梁ブロック（RCコン）、PC桁などで構成されている。工事手順はΦ1500～Φ1800鋼管杭を海底下-61mまで打ち込む。1次打設は油圧ハンマーによる振動工法、2次打設は油圧ハンマーにより打止め高さまで最終打撃する。鋼管杭打設作業では摩周丸浮体施設に接近し、朝市市場や中心市街地に隣接



受梁ブロック据付状況

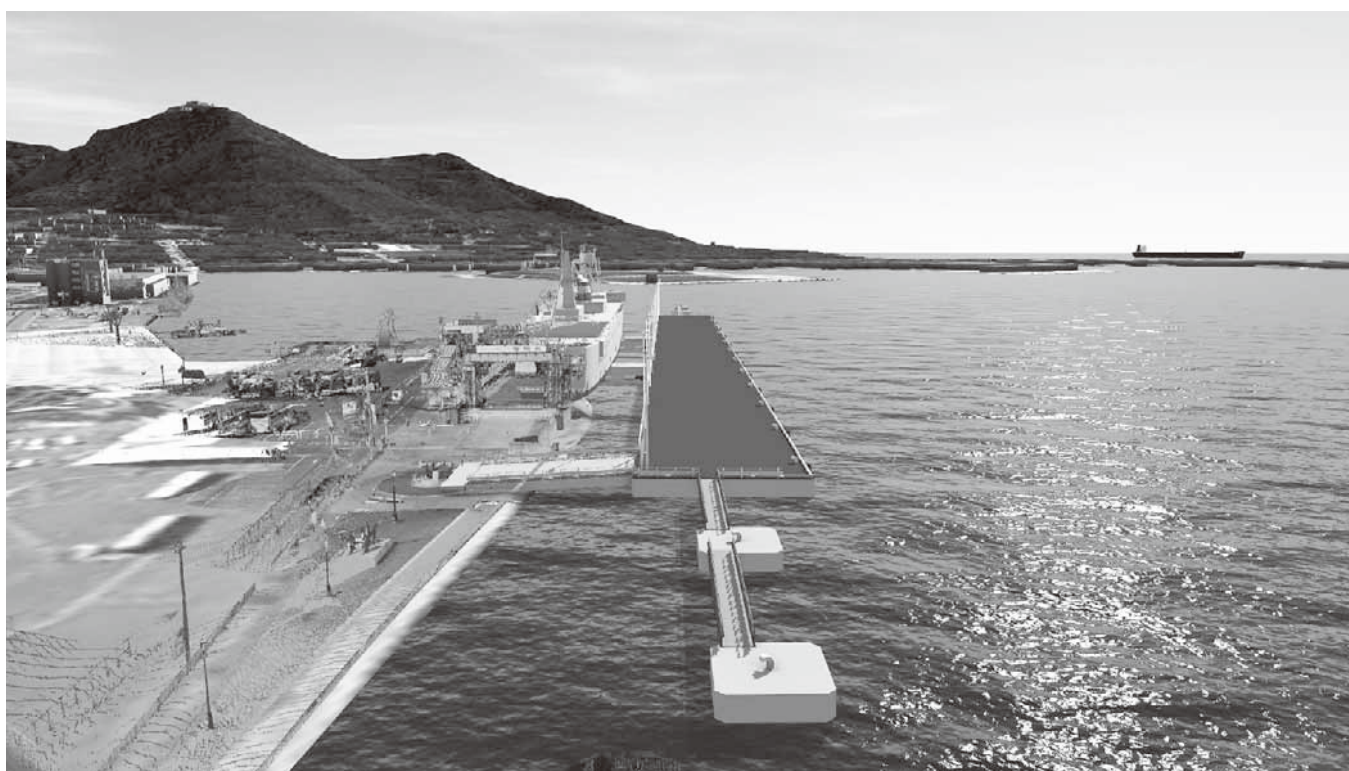
しているため、これらの施工条件を十分に配慮しながら打設精度を向上させていた。

次に受梁コンクリートは高い品質と工期短縮、天候に左右されず計画的に工事を進めていくために、陸上製作（プレキャスト化）した。受梁ブロックを鋼管杭

上に海上据付し、今年3月までに受梁ブロック8カ所を据付した。

今年度はゼロ国債工事により引き続き東洋建設㈱、そして森川組、菅原組がそれぞれ工事を受注し、今年秋予定の暫定供用までに栈橋部全体250mのうち175m、及び東ドルフィン部50mの完工を目指して現場を挙げて取り組んでいる。

クルーズ船寄港では国内外から一度に多数の観光客がやってくるだけに地域の経済効果が大いに期待できる。さらに函館港には観光地としての魅力が沢山あり、若松地区にクルーズ船専用岸壁が供用されることにより、徒歩圏内に中心市街地や主要観光施設が近いため多くの乗客や乗組員（クルー）を呼び込む。滞在時間の拡大とともに中心市街地周辺が国内外の観光客でいっそう賑わうことが期待できる。



クルーズ船岸壁(-10m) 完成予想図

# 私の趣味

## 『中国瀋陽再訪の旅』

株式会社中田組 梅沢 信敏

室蘭出身の私は大学入学まで札幌を始め道内外の街をほとんど知らず、国家公務員として各地に転勤する中で、また、そこからの出張等を機会に新たな街と出会いました。ところで趣味の定義の一つには次のように書かれています。「人間が自由時間に、好んで習慣的に繰り返しおこなう行為、事柄やその対象のこと。」ほとんどの場合、受動的に行かされることとなる転勤を「旅」とは呼ばないと思いますが、初めて行った先で出会うその土地特有の景観や歴史・文化や食はどこに行っても私を能動的にさせ、好んであちこち宝探しの「旅」に誘いました。やや強引かもしれませんが、これからどのくらいの長さがあるか分からない残りの人生を含めて「旅」を趣味として生きていきたいと思っています。おそらくこれからはすべて能動的な旅として。

ご多分に漏れず初めての海外旅行も外務省に出向しての海外勤務の時でした。中国東北3省、旧満州国時代の奉天、今の遼寧省瀋陽市です。転勤の打診があったときまで瀋陽の名前も場所も実は知りませんでした。その時32歳。妻と6歳、3歳、1歳の2男1女を引き連れて未知の世界へと3年の旅に出ました。清朝時代の発祥の地であり、旧満州時代に建てられた日本の建造物も数多く残っている歴史豊かな大都市です。美味しい中国東北料理とともに、やはりここでも宝探しの「旅」を堪能しておりました。ひとつ瀋陽勤務時代の教訓を上げるとすれば、「中国で出会った人の中には、誠実な人もいれば、ずる賢い人もいる。優しい人もいれば、意地の悪い人もいる。それって、日本人も同じこと。」当たり前のことかもしれませんが、私の人生観、世界観が、あ

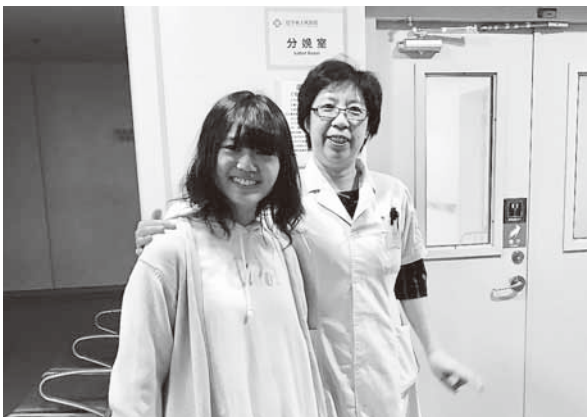
る意味突き抜けた瞬間でもありました。帰国まで1年弱となったある日、4人目の子が妻のお腹に宿りました。4人4様ではあるものの毎回つわりは重く、この時は中国の鍼灸と漢方に大変お世話になりました。日本での出産も考えましたが、予定日が帰国予定の3か月前で新勤務地が不明ということもあり、子供たちの転校のことも考慮して現地、瀋陽での出産を妻と話し合い決断しました。平成6年12月22日、遼寧省人民医院にて女兒誕生。母子ともに健康。体重は7斤6兩、中国では1斤=500グラムなので、3,800グラム。4人中1番↑。きっと漢方はじめ東洋医学のお陰ですね。女医さん、助産師さん、看護師さん皆々に良くしていただき、翌年3月、家族6人で無事帰国。本当にいろいろなことがあった3年間でしたが、当時桑島隆一さんが勤務していた



遼寧省人民医院

ニュージーランドを始め中国以外の国々にも、休暇を利用して家族全員で、それぞれ「旅」をすることができ、支えていただいた日中両国始め多くの関係者の皆様に多謝多謝です。

あれから23年、瀋陽生まれの史芳子（しほこ）も今年の4月から社会人。史芳子が成人したら、一度は生まれ故郷の瀋陽と出生病院に連れて行ってあげたい。その願いが昨年9月に叶いました。史芳子は大学最後の夏休み、3番目の長女、安有子（あゆこ）は入籍を翌月に控えて退職前休暇中。妻と息子たちは仕事や所用があり家族みんななどということにはなりませんでしたが、私と嫁入り前の娘二人での最初で最後の「三人旅」として4泊5日の瀋陽再訪を果たしました。



白主任医師と史芳子

瀋陽時代に一緒に仕事をした李維国さんと古屋健さんの取り計らいで、当時若手女医さんとして史芳子を見ていただいた産婦人科の白先生が今も主任医師として遼寧省人民医院に勤務していることが分かり、瀋陽訪問翌日の午前中に再訪し、感動の再会を果たすことができました。今は建て直したということでしたが、現在の産科病棟や分娩室も案内してもらいました。

その後、勤務先だった日本国瀋陽総領事館を再訪し、私の7代後任の文化領事として勤務中の菊地聡一さんや当時の中国人スタッフの方々、新たに巡り合った方々などとの懇親を深め、また、瀋陽故宮、

東陵公園、北陵公園などの名所巡りや当時はなかった瀋陽地下鉄も体感し、思い出深い三人旅はあっという間に帰国の時を迎えたのでした。この時期、私も34年3か月間の公務員生活を終え、4か月余りの充電期間中。使い方が違うと思いますが、「天の時、地の利、人の輪」そして「瀋陽再訪の旅」実現に大感謝。(完)



菊地領事の執務室にて



瀋陽総領事館のスタッフ有志と



ヌルハチの眠る東陵公園にて

# 第56回 もんべつ流氷まつり

RH'13/H0'

b/H0'

第56回もんべつ流氷まつり（実行委員会主催 実行委員長 宮川良一紋別市長）が2月9日好天の中、市海洋公園で開催された。

もんべつ流氷まつりのメイン氷像は「アンコールワット」（高さ9メートル、幅23メートル、5本の塔が特徴）で陸上自衛隊の支援隊で製作された。

アンコールワット前の特設ステージで開会式が行われ、テープカットやアンコールワット氷像の実行委員会への

引渡式と感謝状贈呈式などが行われた。そのほか、会場には大小30基の市民氷像と多数の出店が並び来場の市民らを楽しませていた。

もんべつ流氷まつりは、2月9日から4日間行われ、オホーツクの流氷を引く「人間ばん馬大会」「市民雪合戦」「お笑いコンビのライブ」「大漁祈願祭・餅まき」「コスプレコンテスト」など多くのイベントが行われ、会場は大勢の市民や観光客で賑わいを見せていた。



大勢の人で賑わう第56回もんべつ流氷まつり



氷の滑り台で楽しむ子供たち



氷柱にしがみつく子供たち



# 第20回 小樽雪あかりの路が開催

手づくりの暖かさをコンセプトに、すっかり小樽の冬の風物詩として定着した「小樽雪あかりの路」が、2月9日（金）から18日（日）の10日間に亘って開催された。20回目の節目を迎えた今回は、これまでのメイン会場である小樽運河と旧国鉄手宮線のほかに朝里川温泉も加え、期間中、ミニコンサートやバックヤードツアー、商店街、観光施設で多くの関連イベントが行われた。

9日午後5時から運河会場の浅草橋でオープニングセ

レモニーが行われ、初の試みとして新日本海フェリーの汽笛と市内の寺院の梵鐘により、多くの市民や観光客が見守る中で浮き玉キャンドルの点灯が行われた。運河会場では、運河の水面に浮かぶ「浮き玉キャンドル」と散策路を飾る「スノーキャンドル」で来場者を迎え、イベントは、韓国や中国を含めた国内外の延べ2千人以上のボランティアに支えられて、全日程を通して、約48万8千人の来場者を数えた。



今年も多くの人で賑わった運河会場



浅草橋からの手宮方面を望む



運河を飾るスノーキャンドル

## 客船寄港

# クルーズシーズン幕開け 函館港にクルーズ船 本年度初入港

米国プリンセス・クルーズ社の大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」(11万5,906トン)が4月25日、函館港港町ふ頭に寄港し、今季のクルーズシーズンが幕開けした。あいにくの雨の中、乗客はバスやタクシーで移動し、市内観光へ繰り出した。

同船が函館港に着岸するのは5年連続で、今回は横浜発の9日間の旅路で、釜山(韓国)や金沢などを経て函



港町ふ頭に接岸したダイヤモンド・プリンセス

館を訪れた。今年は函館にあと6回寄港する予定。

岸壁では遺愛女子高校英語科

の2、3年生70人が乗客を対象に、恒例の客船ボランティア活動を行った。雨で「いか踊り」での出迎えはできなかったが、函館駅前周辺の観光名所などを丁寧に案内した。同校のボランティア活動は今年で12年目。英語力を磨く一環として外国客船の寄港時には案内役を務めている。今回は3年生が出迎え、2年生が函館駅前で観光案内を中心に行った。乗客の出迎えでは、セレモニーは雨で中止になったが、降りてくる乗客に笑顔で観光パンフレットを手渡したり、バス乗り場などを日本語や英語で説明したりし、喜ばれていた。

函館港へのクルーズ船の寄港は今年度、30回を予定。過去最も多かった2014年度の延べ37回に次ぐ規模になる見通しとなっている。

## クルーズ船釧路港に初寄港

オランダ船籍の大型客船「フォーレングム」(6万1,396トン、238m)が連休初日の4月28日(土)釧路港耐震・旅客船ターミナルに午前8時頃着岸した。釧路港は今年初の旅客船で、乗客約1,400人乗せアメリカ、カナダへ向かう途中に立ち寄った。旅客船ターミナルには「釧路港おもてなし倶楽部友の会」のメンバーの他、大勢の市民がフォーレングムを出迎えた。ターミナル周辺では、交流サロンの開設や道東地域の特産品販売などで乗客をもてなした。夕方の出港時には地元男性ボカルのおもてなしソングが披露された。

また、釧路市は平成30年(2018)の釧路港クルーズカ

レンダーを作成し、多くの市民にクルーズ船の歓迎、見送りに参加してもらえるよう、商店街、ボランティアなど関係団体に配布した。カレンダーには、今年釧路港に寄港する予定の20隻の船名、寄港日、総トン数、停泊時間、停泊岸壁などが紹介されている。



旅客船ターミナルに接岸したフォーレングム

# 室蘭港にクルーズ船が寄港

マルタ船籍の「セレブリティ・ミレニアム」（9万228トン）が、4月30日午前6時45分ごろ室蘭港崎守ふ頭に接岸した。乗客数はアメリカ、カナダ、オーストラリアを中心に2,091人、乗組員965人。室蘭港には昨年5月に続き通算3回目の寄港。今回は4月26日に横浜港を出港し函館港、室蘭港、ロシアのペトロパブロフスクを経由し、5月10日にカナダのバンクーバーを目指す15日間の船旅の途中。

同ふ頭で行われた入港歓迎セレモニーでは、青山剛市長から記念の盾を受け取ったニコラオス・クリストドラキス船長が「室蘭港で乗客、船員と楽しめることに感謝します。次の寄港も心待ちにしています」と笑顔で答えていた。

乗客は、オプションツアーで登別や洞爺湖温泉、札幌

などに出掛けたほか、輪西町の「ボルタ工房」や市民団体の「室蘭港を愛する会」の土産物



接岸時の歓迎模様

販売、海星学院高等学校の生徒26人との英会話や書道体験、リクエストした言葉を毛筆で書いた色紙をプレゼントされる、などの文化交流をふ頭の会場で楽しんだ。

船は同日夕方、北海道大谷室蘭高等学校吹奏楽部による見送りを受けながら、次の寄港地に向け出港した。乗客のおもてなしを行っていた室蘭開発建設部職員の中には「俺も乗ってゆきたい」と名残を惜しむ人もいた。

今年室蘭港には、今後6回のクルーズ船が入港する予定

## Information

### ◎広報委員会だより◎

平成30年5月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	金子 功	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆 司	東洋建設(株)
(部会長)	大倉 正 憲	勇建設(株)
(副部会長)	東 志 郎	萩原建設工業(株)
	荒井 直 人	東亜建設工業(株)
	毛利 照 男	釧石工業(株)
	渡辺 修 司	(株)菅原組
	石島 隆 司	近藤工業(株)
	渡部 優	菱中建設(株)
	大前 豊	五洋建設(株)
	高田 稔 年	あおみ建設(株)

※広報委員会からのお知らせ

会報「北のみなと」の編集・刊行基準第5条(10)当協会会員からの寄稿記事

- ア 新造船（機械・装置含む）の紹介
- イ 注目される工事の着工、完成施設の紹介
- ウ 工事現場の紹介
- エ 各地域の技術研究会・イメージアップ推進事業などの紹介

### ◎業界だより◎

#### ◎会員代表者の交代

- (株)大林組札幌支店  
執行役員支店長 矢野 基 平成30年3月
- 清水建設(株)北海道支店  
執行役員支店長 中川 収 平成30年4月



漁船係留状況



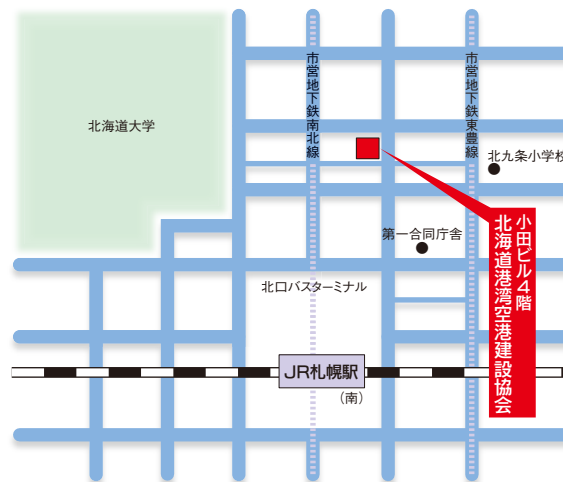
フェリー乗降客



奥尻ムーンライトマラソン

〔写真提供：函館開発建設部〕

## 北海道港湾空港建設協会 案内図



## 会報「北のみなと」No.94

発行年月 平成30年 5月  
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹  
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)  
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733  
<http://www.hokkaido-kkk.jp>  
 Email:hkkk@h4.dion.ne.jp  
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会  
 編集責任者 大倉 正憲  
 印刷 (株)須田製版